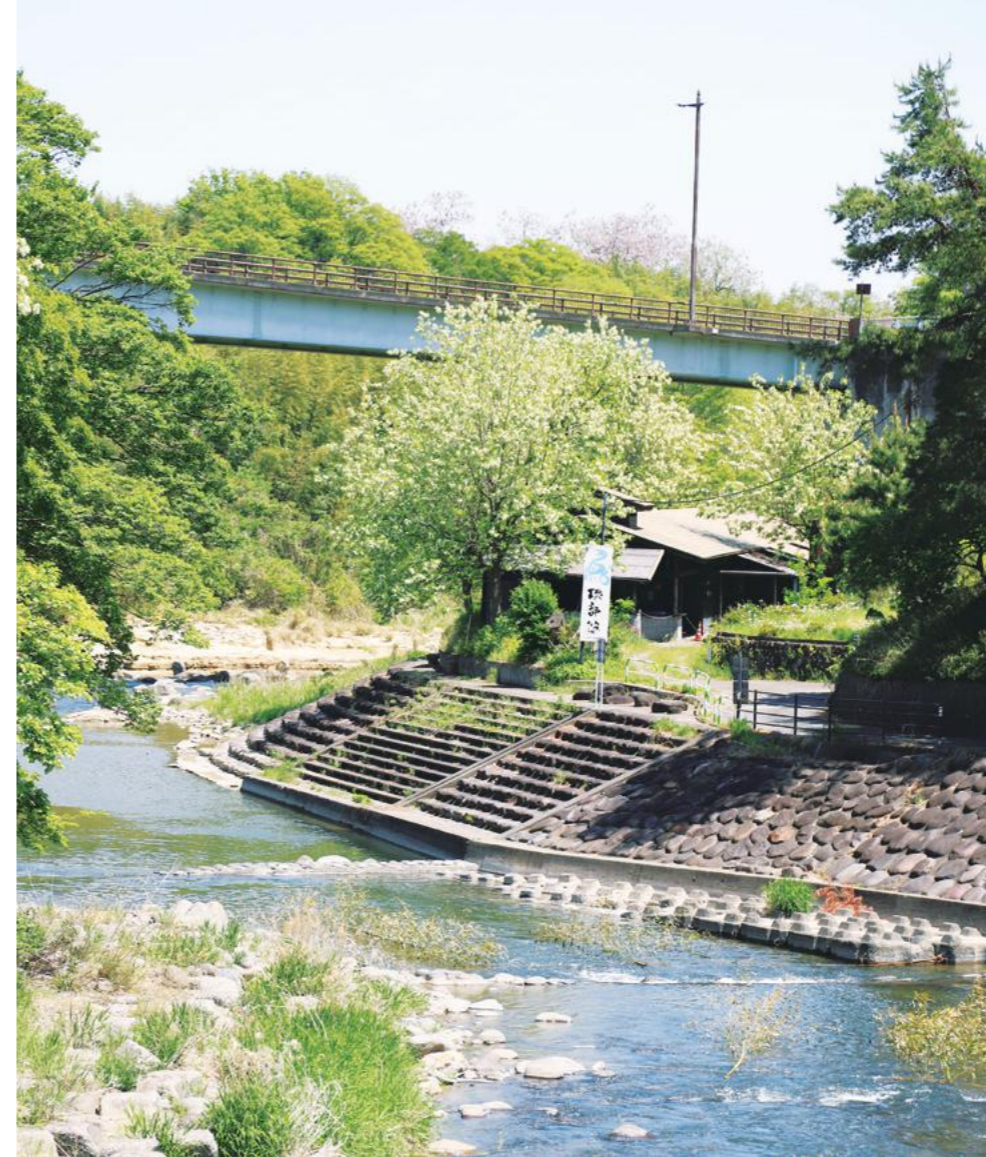


碓氷川と烏川流域で出会う特別なグルメ

山河が織りなす風景を愛でる

高崎市庁舎最上階・21階の展望フロアから、榛名連峰などの山並みを背景に蛇行する烏川と碓氷川が合流する様子が一望できます。新緑が輝きを増し川面が白く光る、山河が織りなす初夏の景色を満喫しに、碓氷川と烏川の上流に足を伸ばしてみませんか。嬉しい発見がありそうです。



碓氷川のほとりにある磯部築



烏川は利根川水系の一級河川。源は群馬県と長野県の県境にそびえる鼻曲山に発します。榛名山の西側を東南方向に流れ、平野部に入ってから碓氷川・錫川・神流川と合わせて利根川に合流します。碓氷川は碓氷峠に端を発し、国道18号と並行しながら安中市を流れます。



高崎市庁舎展望フロアから望む碓氷川(左)と烏川(右)の合流地点

碓氷川のほとりで新鮮な鮎と西上州の地場食材を堪能

夏の風物詩
磯部築がオープン

碓氷峠を水源に、名峰「妙義山」を望む安中市内を流れる碓氷川。その清流沿いに「温泉マーク発祥」の地として知られる磯部温泉が広がり、川のほとりでは6月～8月までの夏季限定で「磯部築」がオープンします。



独特の香りと深い味わいで「川の女王」と称される鮎。抜群の鮮度を味わって

いそべやな 磯部築

- 営業時間
6月3日(土)～8月31日(木)
平日：午前11時～午後5時
土日祝日：午前11時～午後6時
お盆期間(8月13日～16日の4日間)
午前11時～午後7時
花火大会(15日)は予約制で午後5時～午後8時
※期間中は無休/営業時間以降の予約は要相談/ラストオーダーは閉店30分前
- アクセス 群馬県安中市磯部1丁目12-34
- ご予約 TEL：027-385-6959



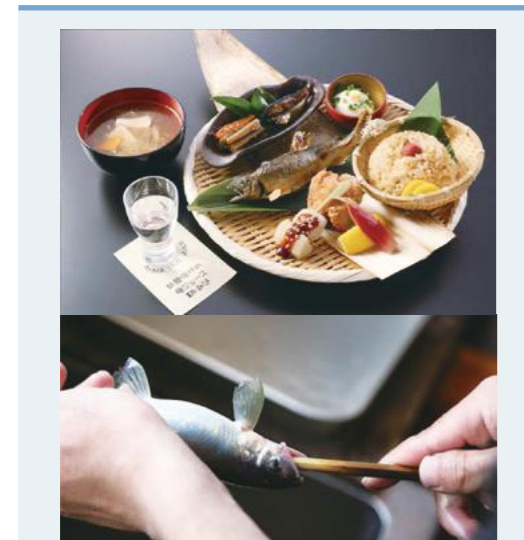
テイクアウトメニューはお土産にも最適!



コース料理や一品料理があり、平均ご予算はお一人様3500円程度



清流を眺めながら憩いのひとときを



体験メニュー〈鮎の塩焼き体験と御前〉

生きている新鮮な鮎を串に刺して焼く、焼き場体験ができます。「命をいただく」という意識の芽生えや、食事を大切にする心を育むきっかけなど、子どもたちの「食育」の一環としてもおすすめ。鮎の塩焼きや地元食材を使った惣菜数種、地域に伝わるおばあちゃんのけんちん汁などを提供する「特別御前」が付きます。鮎が焼き上がるまで30分ほどかかります。ロケーションを楽しみながらお待ちください。

ます。つかみ取りした鮎をその場で塩焼きにして食べられる築は、体験型の食事処として人気を博しました。

現在では、河川法の改正などあって築を設置することはありません。また、近くでは溪流釣りを楽しむ釣り人も多く見かけますが、磯部築ではお客様に安全な食材を提供するため、養殖の鮎を生け簀に入れ、鮮度を保った状態で調理しています。

清流を感じながら川の幸 西上州の食材を味わう

たブランド米「坂本の米」、秋間の里芋ぐしと梅ジュース、下仁田の刺身こんにやく、松井田のわさび菜漬、妙義の舞茸、有田屋の味噌・醤油など、地元食材をふんだんに使用し、料亭の調理技術で仕上げたコース料理は、まさに「西上州の味めぐり」。この地域への興味が一気に膨らみます。テイクアウトができる「鮎のお弁当」や「鮎の一夜干し」「鮎の甘露煮」などはお土産にも最適。滋味あふれる料理の数々は、心も体も元気にするパワーフードといえます。

緑陰が作り出す外界から遮断された空間で川のせせらぎをBGMに、ゆっくりと流れる非日常の時間を過ごせます。



東善寺の境内にある小栗上野介忠順の胸像。昭和28(1953)年に横須賀市より寄贈されました。

小栗上野介



小栗上野介がアメリカから持ち帰ったネジ、ピストル、手回しドリルなど。史料提供/東善寺(倉測町)

日本近代化のレールを敷いた小栗さま

「鉄」の国をめざすきっかけ 幕府の使節団として渡米

小栗上野介忠順は、幕末に活躍した江戸幕府の幕臣です。江戸駿河台の旗本・小栗忠高の子として生まれ、少年期から学問や武術、砲術などを学びました。17歳で登城すると、その文武の才が注目されました。時に率直な物言いが疎まれ、官職を幾度も変えることがありましたが、その度に多才さを発揮しました。



ワシントン海軍造船所を視察した遣米使節団。安政7(1860)年4月5日に撮影。前列右から2人目が小栗上野介。

安政3(1856)年に、初代駐日米国領事のタウンゼント・ハリスが日本に派遣され、自由貿易権と居留権獲得を要求すると、幕府は日米修好通商条約に調印。この批准書を交換するため、安政7(1860)年に幕府は遣米使節団を派遣することになり、小栗上野介は3人の筆頭のうち目付け役として米軍艦「ポウハタン号」でサンフランシスコに渡り、パナマ経由でワシントンを訪れました。

使節団はワシントンで海軍造船所を視察。そこでは大砲やライフル、砲弾などのあらゆる鉄製品が、蒸気の子カラで大量に製造されていました。それを見た小栗上野介は驚き、「日本にもこういう施設を造りたい」と、日本の近代化がそれによって進んでいくという確信を得ました。

その後、世界一周の航海をしながら帰国しましたが、小栗上野介は米国からネジ、ピストル、手回しドリル、望遠鏡などを持ち帰り、「日本を(木)の国から(鉄)の国に変えるには、こういうものをどんどん造れる国にしたい」と想いを膨らませていきます。

顕彰慰霊碑

「偉人小栗上野介 罪なくして此所に斬らる」と刻んだ小栗上野介の顕彰慰霊碑が、鳥川のほとりの水沼河原にあります。死後63年経った昭和6(1931)年、斬首地の村人たち(当時の倉田・鳥測両村)によって建てられました。



鳥川上流域で見つけた よこすか海軍カレーと小栗さま

本場以外で唯一の認定店 はまゆう山荘の 海軍カレー

鳥川の流れに沿って高崎市倉測町を通る県道54号線を軽井沢方面に車を走らせると、森の中に北欧のシャトーを思わせる石と木の重厚な建物「はまゆう山荘」が出現します。このレストランのメニューには『よこすか海軍カレー』があり、本場横須賀以外で唯一の認定店となっています。

『よこすか海軍カレー』は日本のカレーのルーツ。イギリス海軍の軍隊食に採用されていましたが、栄養バランスが良いことから、明治時代に日本海軍の艦艇メニューに取り入れられました。原則は『海軍割烹術参考書』(明治41年)に書かれたレシピに基づいて調理されているカレー。全国の海上自衛隊では毎週金曜日に、このカレーライスを食べているそうです。

元々「はまゆう山荘」は、昭和62(1987)年に神奈川県横須賀市によって横須賀市民休暇村として

建てられました。高崎市に合併する前の倉測村は、横須賀市と友好都市提携を結んでおり、そのつながりから現在も、『よこすか海軍カレー』が提供されています。

勝利できたのは、 小栗さんが造船所を 造ってくれたおかげ

そもそも、神奈川県横須賀市と倉測が友好都市提携を結んだ背景には、ある人物の存在がありました。倉測にゆかりのある「小栗さま」と、小栗上野介忠順(おぐりこうすけ)のすけただまごです。

激動する幕末の時代を幕臣として生きた小栗上野介は、横須賀造船所の建設に貢献しました。しかし、幕府と敵対する薩長に最後まで徹底抗戦を主張したうえ、有能な人物だったため怖れられ、「逆賊」として42歳で斬首されました。長らく歴史の表舞台に取り上げられることはありませんでしたが、日露戦争の重要な局面となった日本海海戦でバルチック艦隊を撃破し、日本の勝利を決定づけた連合

艦隊司令官の東郷平八郎が、小栗上野介について感謝の意を表しました。

明治45(1912)年の夏、小栗上野介の遺族を自宅に招いた東郷は、「勝利を得ることができたのは、小栗上野介さんが横須賀造船所を造っておいしてくれたおかげです」とお礼の言葉を述べ、「仁義禮智信」と書いた書を贈りました。



はまゆう山荘

高崎市倉測町川浦27-80 予約・問合せ / TEL 027-378-2333
受付時間 / 8:00 ~ 20:00





たいせいこども園の園児たち

「高崎産バナナ」の栽培は、多機能型事業所『ワークランドらくま』が取り組む農業と福祉の連携の一環で、利用者の工賃アップなど就労支援を目的に行われています。

令和4年5月に240株を植え、10月下旬には、大きな花の中にベビーバナナが初めて顔をのぞかせました。それから約4カ月後の3月初旬、下小埜町の「たいせいこども園」のお別れ遠足で35名の年長児が見学に訪れた機会に、バナナの初収穫をお披露目しました。

ひと房に約200本の緑色のバナナが実り、茎が切り落とされました。その房を数人で抱きかかえ重さを実感する園児たち。バナナは熟成室で1週間程度保管され色づくのを待って園



花が咲いてベビーバナナが実をつけました。実が大きくなるために光合成が必要で、最低8枚の葉っぱを確保します。

園児たちが見守る中、高崎産バナナを初収穫！

『Shin』VOL.111号(秋号)で紹介した「氷河期の記憶が刻まれた」高崎産のバナナが、令和5年3月2日に高崎市浜川町にある温室で収穫されました。亜熱帯雨林のジャングルのような温室内には、240本のバナナの木と、その間にコーヒーマツの木も植えられ、高崎産のバナナとコーヒーマツという夢の競演が実現しています。



見たちに提供されました。

この高崎産バナナは、高崎駅前のおーパ高崎1階にある高崎のアンテナショップ「高崎じまん」で販売される他、高崎市のふるさと納税の返礼品等にもなっています。

高崎産 コーヒー 白く可愛い花が咲き コーヒーチェリーが赤く熟す



昨年10月、バナナの温室に高崎に拠点を構えるコーヒーの大和屋さんがオーナーとなり、コーヒーの苗木200本を植えました。「地球温暖化の影響で、2050年にはコーヒーの生産が減少していくと予想されており、地元の高崎でコーヒーを生産することも考えていました」と平湯聡社長は話します。バナナとコーヒーは同じ気候や環境で栽培されるため、2社で意気投合し高崎産コーヒープロジェクトがスタートしました。

コーヒーの木は可憐な白い花をつけた後、緑色のコーヒーチェリーが実ります。コーヒーチェリーは緑色から次第に赤く熟していき、完全になるとひと粒ひと粒丁寧に手摘みで収穫していきます。果肉を取り除いて乾燥させるなど処理をした後にコーヒーの生豆ができあがります。生豆を焙煎することで、よく見かける茶色いコーヒー豆になるのです。

1本の木からおよそ3kgのコーヒーチェリーが収穫できます。1杯のコーヒーを飲むために、およそ70gのコーヒーチェリーを使います。



東善寺の村上泰賢住職。「小栗さまも立派ですが、先祖が示した義侠心(正義を貫く心)がこの里の誇りになっています」と話します。



小栗上野介忠順の墓所・遺品館がある東善寺(高崎市倉淵町権田169)では、毎年5月後半に「小栗まつり」を開催。講演会、墓参、マンドリン演奏会、昼市などが行われ、その偉業を振り返ります。

横須賀製鉄所を建設 “明治の父”と呼ばれて

帰国後、幕府の外国奉行や勘定奉行などの要職を歴任し、財政の立て直しを指揮。最大の出費は外国からの艦船の購入で、小栗上野介は駐日フランス公使レオン・ロッシュとつながり、帰国から4年後の慶応元(1865)年に横須賀製鉄所の建設に取りかかり完成させました。日本初の近代的な総合工場として、造船だけでなく様々な機械がつくられました。これにより、当時わずか30数戸の海辺の漁村だった横須賀が、賑わいのある街に変貌しました。

明治維新によって、「製鉄所」は明治政府に引き継がれました。「横須賀造船所」と名前を変え、明治8(1875)年頃から本格的な軍艦の建造を開始。その後も「海軍造船所」「横須賀海軍工廠」と名称を変え、戦艦「陸奥」、空母「信濃」をはじめ数々の軍艦を造りました。

かつて、大隈重信が「明治政府の近代化政策は小栗上野介の模倣に過ぎない」と語り、作家司馬遼

太郎は小栗上野介を「明治の父」と称賛し、「横須賀はかつて日本近代化学の一切の源泉だった」と記しています。

薩長との徹底抗戦を主張 罷免され上野国(群馬県) 権田村(倉淵)へ

15代将軍徳川慶喜は慶応3(1867)年に朝廷に恭順の姿勢をとり大政を奉還しました。小栗上野介は新政府への徹底抗戦を最後まで主張し、箱根で陸海軍共同のさみ撃ちを提案しましたが受け入れられませんでした。後にこの話を聞いた新政府軍の総司令官・大村益次郎は「その策が実行されていたら、今頃われわれの首はなかったであろう」と述べたといひます。

小栗上野介忠順は、慶応4(1868)年1月15日に幕府の要職を罷免されました。同月28日に領地の「上野国群馬郡権田村」への土着願書」を提出。3月初めに一家そろって権田村(現高崎市倉淵町)の東善寺に移り住みました。しかし、その2カ月後、東山道

総督府(西軍)の命を受けた高崎藩・安中藩・吉井藩の兵により捕縛され、取り調べもないまま烏川の水沼河原で3人の家臣と共に斬首されました。

享年42歳。ポウハタン号で渡米し、地球を一周して帰国した33歳からの8年間の奮闘ぶりには目を見張るものがありました。



横須賀市のヴェルニー公園

小栗上野介とフランス人技師ヴェルニーが建設に貢献した「旧横須賀製鉄所」を対岸に望むヴェルニー公園。横須賀市発展の基盤を確立した恩人として、大正11(1922)年に作られた胸像が、昭和28(1953)年5月にヴェルニー公園に移され、ヴェルニーの胸像と並んで建てられています。画像提供/横須賀観光協会



南牧村で暮らす

横浜市民25年。南牧村民3年

古川拓^{たく}さんが手がける事業

群馬県の最南端に位置する標高3200m〜1400m前後の山々に囲まれた甘楽郡南牧村。人口1600人ほどの南牧村は高齢化率日本一の村として広く知られる一方で、豊かな自然に魅かれて移住する若い世代の人たちもいます。2017年〜2021年の5年間で、28世帯39名の方々が移住しました。その一人、古川拓さんをご紹介します。



古川拓さんが南牧村への移住を果たしたのは2020年7月。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに通う2年生の終わりに、先輩に連れられ初めて訪れた時、川のせせらぎと小鳥のさえずりで目覚める南牧の自然環境に感動したといいます。2016年からは「なんもく大学」という団体を運営し、村民を先生にして田舎暮らしの知恵や生きる力を学ぶイベントを毎月開催。5年4カ月の間70回以上も村に通い、実家のある神奈川県と南牧村の2拠点生活を続けました。南牧の「都会にはない自由度の高さ」に魅かれ、文化や伝統、先人の生きた証が消失していく過程に新しい仕組みをつくり残していく試みに興

味が膨らみ、コロナ禍で県境をまたぐことが困難になったことから、南牧村への移住を決めました。そして、2021年3月に株式会社サンエイト企画を設立。「造林・育林」という森林を育てる林業を主要な事業として展開してきました。現在は、担当従業員の退社により、林業事業は一時休止し、村営「なんもく村自然公園キャンプ場」の委託管理と人気パンの製造販売を行っています。

「はつきり言って、思うようにならないことのほうが多いですが、すべては自分が招いたことと思えば、気持ちを切り替え前を向くことができます。乗り越えることができます。乗り越えることができます。自分の成長を実感することができます」と話す古川さん。チャレンジ精神にあふれた行動力には目を見張るものがあります。「地域にはその地域なりの発展の仕方があります。地域が抱えている課題に対して、改善の手だてを見つけて取り組んでいくプレーヤーでありたい」と言う古川さんは今、小さな一歩を踏み出しています。南牧村民となって3年。この間に結婚して可愛い赤ちゃんも誕生しました。



造林地の整備



入籍時の記念写真

石窯で薪焼きの大人気! 「とらのこぱん」

南牧村の中沢虎雄さんが石窯と薪を使って焼いてきたパンは「とらのこぱん」として約20年もの間親しまれてきました。虎雄さんが亡くなり、村に寄贈されたパン工房の設備を、古川さんの会社で受け継ぎパンの製造を始めました。そこには、村の大切な財産を守り、山の木材の活用にもつながるうえ、道の駅「オアシスなんもく」を盛り上げる商品を作りたいという想いがありました。

「とらのこぱん」のレシピを直接継承することはできませんでしたが、何度も試作を重ね、焼き窯の燃料に使用する薪の香りと、薪の水分でふっくらした仕上がり、トラ模様をイメージした切り目が入った焦げ茶色と、「とらのこぱん」の特徴をしっかりと継承した「とらのこぱん」ができました。

製造は金・土・日の3日間で、約450個を完売。行列ができるほどの人気商品になっています。



道の駅「オアシスなんもく」で販売中(金・土・日の3日間)

日本で一番海から遠い、圧倒的に山の中のキャンプ場



バンガロー

妙義荒船佐久高原国定公園の雄大な自然と渓谷に囲まれた標高1000m級の高原にある「なんもく村自然公園キャンプ場」。太平洋からも日本海からも110km以上離れているキャンプ場は、全国でもここだけです。東京から2時間半で到着する山奥のキャンプ場では、森の木々や生き物たちの息吹を身近に感じることができます。バンガロー、コテージ、テントサイト、オートキャンプサイト、屋根付きバーベキュー場などがあり、お好みのアウトドアライフを楽しめます。



なんもく村自然公園キャンプ場

〒370-2815 群馬県甘楽郡南牧村大字熊倉981番地
TEL.0274-87-3657
開園期間 / 4月第4土曜日頃〜11月30日まで

施設の概要

- ・管理棟 (総合案内、レンタル品貸出と販売、ドリンク自動販売機)
- ・コテージ(10人用) 8棟 ・バンガロー 10棟程度
- ・テントサイト 10区画程度
- ・オートキャンプサイト(約5m×13m) 8区画
- ・屋根付きバーベキュー場 2箇所
- ・多目的スペース(体育館、会議室など)

